

全 仏

7 / 54



お盆に思う

かたみ子や母が来るとして

手をたたく 一茶

今年も暑さと共にお盆がやってまいりました。この一年間、御自分の身のまわりでも、ずいぶん忙しくなられた方があると思います。長い歴史の流れの中で様々に形を変えて今日に至っております。この盂蘭盆会も、人間の持つ素朴な信仰心の形を変えた姿であろうと思えます。一茶の句にも表われているように、親に先立たれた子供はやはり、どこかに親に対する思慕の念は禁じ得ないでしょう。お盆にはお母さんが選んでくるよといわれ、素材に喜びを全身で表わしている姿が、この句から読み取れます。逆にいいますと、このような子供を一人でも作らない社会にしなければならぬでしょう。

(写真は伊豆七島の新島で行なわれる「精霊流し」(日蓮宗新聞))

大会テーマ 大法輪のもとより大きくより強く

茨城大会の準備進む

第二十六回全日本仏教徒会議

第二十六回全日本仏教徒会議は十月十五日に茨城県水戸市の水戸市民会館にて開かれることが決定し、地元茨城県仏教会（大越孝仁会長）では、三月より実行委員会を発足させ、大会にむけて準備をすすめている。

すでにテーマは「法輪のもと、より大きく、より強く」と決まり、ポスター等も配布され盛り上りをみせている。また大会内容も、一昨年の第二十五回埼玉大会と同様に、大会期間は一日だけとし、参加人員は会場の都合により、県外よりの参加者三百名、県内七百名の計一千名を予定している。また部会は実践、檀信徒、婦人、青年の四部会とし、部会長などの役員は後日決定する。

なお、大会の前日には水戸市において県仏代表者会議が開かれる予定である。

大会の概要

主催 全日本仏教会 茨城県仏教会
開催日 昭和五十四年十月十五日
会場 水戸市民会館
テーマ 「法輪のもと、より大きく

より強く

開場は八時が予定され、午前九時三十分より式典、十時二十分に記念講演、十一時二十分に総会、午後一時より部会が

大会開催にあたり

茨城県仏教会々長

大越 孝仁



一昨年十月の埼玉大会において、次期開催地を茨城でお引受けす

ることとなりました。昨年はご承知の通り第十二回WFB日本大会が開かれたため、第二十六回の全日本仏教徒会議茨城大会は本年開催することとなりました。茨城県仏教会では今春より実行委員会を結成し、実動体制に入りました。しかしながら大会開催にあたり未経験者ばかりであり、埼玉大会をはじめ過去の大会

開かれることになっている。

実行委員会の構成については茨城県仏の理事、評議員を中心に行なわれ、大会役員については、この他に全仏よりの役員をまじえて組織される。茨城大会実行委員会の主な役員者は次のとおり。

実行委員長・小原泰寿、副委員長・中村純崇、事務局次長・猪瀬宝山、事務局長次長・大越孝一、総務部長・奥田俊亮、組織部長・沢田昌道、事業部長・曾根田俊雄、勸募部長・原教仙

のように盛大に実のある大会が出来るかどうか心配いたしております。幸い全仏当局の御指導と県内関係者の一致協力により、今より成果のあることを念願致しておる次第であります。

大会には、特に青少年の教化育成等に重点を置き、諸問題の解決に総力を挙げて邁進し、提出された諸議案について研鑽、討議をいたさき、仏教精神の発揚を期し現代社会の要請に応ずることが、我等仏教徒に課せられた重大な使命であるとう痛感致しております。

この意味におきましても、第二十六回茨城大会の目的が達成されますことを心から祈念し、各宗務関係、本山、各県仏などの諸大徳の御支援と御協力を切に懇願申し上げ、大会を開催するにあたりご挨拶にかえる次第でございます。

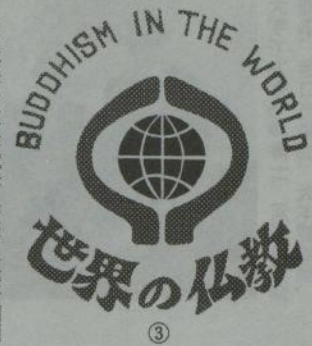
第26回全日本仏教徒会議

茨城大会

- 大会長 大越 孝仁
- 副会長 牧 田 実 栄
- 秋 本 義 雄
- 中 村 純 崇
- 小 林 栄 雄
- 土 肥 浩
- 実行委員長 小 原 泰 寿
- 事務局次長 猪 瀬 宝 山
- 事務局長 大 越 孝 一
- 総務部長 奥 田 俊 亮
- 外執行部実行委員一同

茨城県仏教会本部

茨城県多賀郡十王町友部一九九〇
法蔵院内
〒319-13 〇二九三（32）二〇五二



第二次世界大戦後、中華人民共和国の誕生をはじめ、いわゆる伝統的仏教国にも社会主義国が増えていくにつれ、そこにおける仏教徒の状況が注目されてきた。しかし、社会主義国といっても、革命後六十余年を経るソ連・モンゴル等と、第二次大戦後成立した朝鮮民主主義人民共和国や中華人民共和国、さらにはごく最近独立闘争を達成して社会主義国となったばかりのインドシナ三国の状況等は単純画一的に論ずることはできない。

12年ぶりのハノイ訪問

ベトナム統一仏教会本部よりの招請をうけて、ハノイを十二年ぶりで再び訪問したのは去る四月二十日のことだ

あった。十二年前、連日二百波という米空軍の苛烈な空襲下に、破壊された寺院・教会を視察した時と違って、本部館使寺やハノイ市仏教会事務局の靈光寺における歓迎集会には、沢山の信者と僧尼達が境内で爆竹を鳴らしての歓迎であった。

その交流で知る限り、ベトナム仏教会は、永い戦禍からの村落の復興と共に、破壊された寺院・教会の建設がすすめられており、その中で徒弟教育も立派に行なわれているのを見た。私の荷物を運んでくれた二十歳前後

社会主義国の現状

鈴木 徹 衆

の青年僧達も館使寺で沢山勉強しているのを知った。

ホーチミン市では、釈明月会長をはじめ市仏教会役員の方々の歓迎と共に、僧尼、信徒を含む集会に参加することができた。この南部では、七十五年四月、完全解放(サイゴン陥落)まで、アンクワン寺を中心に仏教徒の動きも複雑であった。いわゆるカイライ政権側に身をおき、民族解放闘争に敵対した仏教徒や、祖国の統一や解放独立ということよりも仏教徒の政治的優遇を

優先する路線をとるものたち、そして民族の独立と統一と共に進んだ仏教徒等があった。

旧サイゴン市仏教会の指導者であった釈明月師は、十五年間もコンソン島のトラの檻と称された牢獄に囚われ、解放後救出された人であった。

現在は、師を会長として愛国仏教会のもとに南部仏教徒の新しい編成統一がすすめられている。

中外日報等に報じられ、あるいはWFB日本大会において一部ベトナム留學僧達によって訴えられた政府による

仏教徒弾圧ということは、いささか事実には反した反政府活動のプロパガンダが弾ずる。確かに一部仏教徒が反政府活動の理由で逮捕されていることは、現地でも聞いているが、ゴ・シェンシェム政権がやったような仏教弾圧とは全然違つことを強調しておこう。社会主義をおそれて外国に亡命した一部の宗教者が流布する反政府宣伝に過ぎない。このことは、やがてホーチミン市仏教会との交流が盛んになるにつれて明らかになることである。

プノンペンに入る

四月二十八日、カンボジアの首都プノンペンに入った。カンボジア仏教会長ロン・シム師に案内頂いたが、ポル・ポト政権(七六年一七九年一月)下に、六万人いた僧侶のほとんどが虐殺され、寺院のなかには仏像が破壊され荒廃をきわめていた。生き残った人々の中で僧侶に会うことができたのはたった七人であった。この狂気の殺人集団と称する他はないポル・ポト政権は、三百万人の自国民を虐殺した。

「毛沢東思想を信奉し、「文化大革命」を内政の基本とするポル・ポト政権は、中国の支援のもとに、まさに狂乱の驚くべき政治を実行した。この真相は、読売新聞の「70」からの出発」という特派員報告や朝日新聞井川特派員の記事等で詳しく伝えられているとおりでである。

ポル・ポト政権を打倒した新政権は、ヘン・サムリン議長を中心に、宗教の自由、学校教育の復活等、民主的政策を掲げて再建に努め、仏教会もロン・シム師を指導者として、70から歩み始めた。いま、カンボジア仏教復興に支援の手が、切実に求められている。

昭和54年7月1日

埼玉県仏、韓国と姉妹提携

埼玉県仏専務理事 河野亮 永

埼玉県仏（岩崎鳳栄会長）では、韓国ソウル市仏教会と友好親善の覚書を交換し、姉妹提携をした。

各宗派は別として、県仏単位で外国と姉妹提携をしたのは埼玉が初めてではないかろうか。

昨年のWFB大会に続く地方大会で、埼玉県仏では川越喜多院で大会を開き、韓国、台湾、香港の三国代表を招待した。



延世大学で左から趙博士、河野埼玉県仏専務理事、樋口亮栄師、坂本観雄師、その後ろが関教授

その折、韓国ソウル市仏教会長、東国大 学校教授朴完一氏からの呼びかけに応じたものである。

埼玉は古来、朝鮮帰化人の拠点集落として高麗神社、聖天院があり、歴史的関係は深い。

この橋渡しに努力した県仏副会長江連俊則師を団長とする僧俗三十七名の親善訪問団一行は、去る五月七日から十日まで、三泊四日の旅を終り、その目的を果たし、全員無事帰国した。

成田からソウルへ飛んだ一行は、朴会長等役員多数の出迎えを受けた。直ちに曹溪寺参拝、釈古庵宗正（管長）を表敬訪問し、アンバサダーホテルの懇親会場へ向った。

当県仏主催で、朴会長等約一千名の役員を招待し、和やかな親善交換の一時を持った。

第二日目、三日目は釜山、慶州の仏寺参拝、見学で過ぎた。

第四日目、帰国の日の昼食はソウル市仏教会主催のレセプションに招待された。朴会長はじめ、婦人会役員等韓国側約四十名出席した。

来賓には元東国大 学校総長趙明基博士（東洋大学卒）、延世大 学校教授関泳珠氏（大正大学卒）が出席された。

韓国料理をたべながら、韓国舞踊、音楽のアトラクション。やがて両国共に飛び入りのど自慢競演の大盛会であった。お互いに名刺交換し、再会を約し名残りを惜んだ。

本年十一月頃に、今度はソウルから来日する予定だといふので、その節は大いに歓迎してさし上げたい。

かくして、国際仏教親善交流の役目を果たした次第である。

仏教英語研究会

関係者の努力で再発足

第十二回世界

仏教徒会議日本

大会は盛會裡に

幕をこじました

が、記念事業の

一つとして仏教

英語研究会の

養成による「仏

英研」の諸氏が

大活躍し、海外

代表からも賛辞

をいたさき、大

きな成果をあげ

ましたことはま

だ目にも新しい

ものであると思

います。

実際には、コンパニオンにとどまらず

事務局の真方まで若い力が発揮され「仏

英研」なくして今大会の成功はなかった

とささげられる活躍ぶりでした。

大会に至るまでの一年半は、新宿の常

円寺を会場に月四回の講義、また春・夏

の休みには合宿を三度にわたって行ない

その結果が大会であられたものです。

この仏教英語研究会を、このまま解散

してしまうのではもったいない、今後も

育成すべきであるとの声は全仏事務局で

も再三でしたが、今度、大会当時の記

念事業委員会関係諸氏の計らいにより、

「仏教英語研究会」が装いも新たに六月

に再発足しました。

この発足には記念事業部長であった山

田一真氏、同委員長の花山勝友氏等の努

力によるもので、活動として

① 仏教英語の研究

② 仏教英語学生の養成

③ 英文邦文による仏教関係資料の出版

などを行ない仏教の国際交流をめざして

いる。

すでに研究会は四月から行なわれてい

るが、六月からは本格的に毎週一回の例

会が開かれる。また別記のごとく合宿も

開かれるので、仏教英語に関心のある方

は参加を申し込まれるとよい。詳細は仏

英研事務局へ。

仏英研役員―理事長・花山勝友、常任

理事・一島正男、松壽弘道、山田一真、

事務局長・山田一真、次長・斉藤円真

事務所―新宿区新小川町三十七牛込

グレースマンション五〇一

― 仏英研合宿要項 ―

― 期日 七月二十三日―二十五日

― 会場 箱根町強羅の大雄山箱根別院

― 会費 一万円（宿泊、食事代など）

― 詳しくは仏英研事務局に問い合わせると。

暑中御見舞い申し上げます

浄土真宗本願寺派

門主	大谷光真
総長	豊原大潤
総務	川野三暁
"	渡辺静波
"	藤音晃祐
"	藤沢実晟
"	平興誓

京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町
〒600 〇七五(三七)五一八一

浄土宗宗務庁

浄土門主	岸信宏
宗務総長	稲岡覚順
総務局長	水谷激道
数学局長	古屋道雄
財務局長	前田秀導
社会局長	飯田信弘
東所長	野村宗春
総長公室長	小口輝雄

善導大師遺忌・法然上人隆誕慶讃

事務局長 漆間純成
開教振興協 山口諦存
会事務局長

宗務庁
京都市東山区林下町四〇〇
〒605 〇七五(五二)二〇〇〇
東京支所
東京都港区芝公園四一七一四
〒105 〇三(四三六)三三五一

東寺真言宗

管長 鷲尾隆輝

宗務総長 木田有岳

京都市南区九条町一番地

新義真言宗々務所 総本山根来寺

管主 加藤太信

宗務総長 広沢純孝

根来寺 寺務長 田村海寂

和歌山県那賀郡岩出町
〒649-62 〇七三(六二)一一四四

念法真教教団 総本山金剛寺

灯主 小倉靈現

大阪市鶴見区緑三ー四ー三二
〒538 〇六(九二)二二〇一

孝道教団

統理 岡野正貫

副統理 岡野鄰子

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221 〇四五(四三二)一一〇一

暑中御見舞い申し上げます

日蓮宗宗務院

管 長 望 月 日 滋

宗務総長 松 村 寿 顕

総務部長 吉 田 文 堯

庶務部長 豊 田 英 世

財務部長 石 井 隆 教

教務部長 風 間 円 静

護 法 伝道部長 金 山 寛 成

新聞部長 中 村 正 彦

遠 忌 事務局長 小 林 栄 雄

東京都大田区池上一三三十五
〒146 〇三(七五)七七八一

総本山 金剛峯寺

高野山真言宗々務所

弘法大師御入定

千百五十年

御遠忌事務局

和歌山県伊都郡高野町高野山
〒648-02 〇七(三六五)二〇一一

融通念仏宗

総本山大念仏寺

法管 主 田 代 尚 光

宗務総長 寺務総長 夏 野 義 常

教学部長 芳 村 良 胤

庶務部長 吉 田 義 貫

財務部長 会 計 部 長 峯 田 義 詮

大阪市平野区平野上町二七三六
大念仏寺内
〒547 〇六(七九)〇〇二二六

臨濟宗妙心寺派

管 長 山 田 無 文

宗務総長 後 藤 純 一

京都市右京区花園妙心寺町
〒616 〇七五(四六三)三二二一

本山修験宗

総本山聖護院門跡

門 主 岩 本 光 徹

執 事 長 宮 城 泰 年

執 事 加 来 徳 泉

田 中 祥 雲

京都市左京区聖護院中町
〒606 〇七五(七七)一八八〇

暑中御見舞い申し上げます

真言宗豊山派宗務所

管 長 川 田 聖 見
 宗務総長 林 亮 海
 総務部長 永 見 聖 宏
 教化部長 門 屋 大 寿
 教務部長 吉 田 俊 誉
 財務部長 岩 脇 宏 信
 弘法大師千五百五十年
 御遠忌記念事業事務局
 林 亮 海
 東京都文京区大塚五の四〇の八
 〒112 〇三(九四五)〇六三九

真言宗智山派宗務庁 総本山智積院法務所

管 長 芙 蓉 良 順
 宗務総長 別 所 弘 因
 寺務長
 総務部長 小 沢 照 禧
 教学部長 高 野 一 能
 教化部長 岡 本 実 良
 法務部長 斎 隆 套
 財務部長 大 津 頼 宥
 出張所長
 別院執事 渡 辺 直 行
 京都市東山区七条東瓦町九六四
 〒605 〇七五(五四)五三六一

真言宗犬鳴派

管 長 東 条 仁 進
 宗務部 帶 盛 竜 応
 財務部長 東 条 仁 哲
 修験道部長 橋 本 隆 雄
 大阪府泉佐野市大木八
 〒590-04 〇七二(四)五九七〇四三

真言宗善通寺派 総本山善通寺

管 長 主 蓮 生 善 隆
 宗務総長 阿 部 本 宣
 執行長
 総 務 山 地 善 真
 香川県善通寺市善通寺町六一五
 〒765 〇八七七六(二)〇一一一

真言宗中山寺派

大本山中山寺

宝塚市中山寺二の十一の一
 〒665 〇七九七(八六)六五一七

真言宗御室派宗務所 総本山 仁和寺

京都市右京区御室大内三十三
 〒616 〇七五(四六一)一一五五

(財)世界平和同願会

理事長 山 崎 良 順
 長野県諏訪市霧ヶ峰強清水
 一三三三三(八)一一七
 電話〇二六六五(三)四四五五

暑中御見舞い申し上げます

真言宗国分寺派 大本山国分寺

座長 西口 公教
宗務総長 足立 有教

大阪市大淀区国分寺一の六の十八
〒531 〇六(三五二)五六三七

大阪府仏教会

会長 西口 公教
(国分寺)

副会長 篤地 一隆
(本照寺)

井上 文克
(妙信寺)

事務局長 川口 良信
(全興寺)

事務局
大阪市大淀区国分寺一の六の十八
国分寺内
〒531 〇六(三五二)五六三七

兵庫県仏教会

会長 小西 日静

副会長 大谷 昭世

雲井 弘善

事務局長 豊島 正典

事務局総務 小西 徹龍

庶務担当 円成 淳龍

財務担当 青柳 泰見

神戸市兵庫区松本通三丁丁四
法華寺内
〒652 〇七八(五二二)一六六八

静岡県仏教会

会長 伊藤 禅覚
(浜松市 天林寺)

副会長 原田 良道
(沼津市 楞嚴寺)

岩田 智雄
(島田市 明輪寺)

谷口 邦雄
(小笠郡 閉田寺)

事務局 浜松市下池川町二
天林寺内

〒430 〇五三四(七一)六三二六

財団法人

埼玉県佛教会

会長 岩崎 鳳栄

副会長 山本 道隆

江連 俊則

専務理事 河野 亮永

浦和市高砂四一三—一八
埼玉会館

〒336 〇四八八(六一)二二三八

財団法人

国際仏教興隆協会

理事長 巖谷 勝雄

役員 一同

東京都目黒区中目黒五丁四一五三
祐天寺内
〒153 〇三(七二)七六〇八

近代仏教研究会

理事長 壬生 照順

事務局長 小室 裕充

東京都台東区元浅草一十七—二
華蔵院内
〒111 〇三(八四四)三六四八

財団法人

日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々

東京都千代田区内神田一五—六
亀田ビル内
〒101 〇三(二五六)四九一一

暑中御見舞い申し上げます

財団法人

仏教伝道協会

〒108 東京都港区芝四の三の十四 〇三(四五五)五八五一	〃	〃	監 事	〃	〃	〃	〃	〃	理 事	理 事 長
	三原信一	坂東環城	芝田徹男	沼田恵範	高辻恵雄	鎌田憲英	松原泰道	雲藤義道	中村元	宮本正尊

社団法人

日本仏教保育協会

名誉会長 大谷光昭
理事長 秋山秀清

東京都港区芝公園四一七一三
三緑会館内
〒105 〇三(四三二)七四七五

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会長 大谷智子
副会長 一条智光
理事長 山本杉
事務局 船口暉子

事務局
東京都世田谷区桜上水四一九七
〒155 〇三(三〇二)一五九八

京都市 仏教会

会長 伴義台
副会長 横井鶴洲
〃 葉上照澄
理事長 小林忍戒
事務局 宮城泰年

京都市中京区東洞院通三条下ル
住心院内
〒604 〇七五(二二一)八五九八

浄土宗西山深草派 総本山誓願寺

管 長 伴義台
宗務長 山本勝隆
総務部長 鶴銅慶範
教学部長 伊藤玄法
本山部長 中村恵龍

京都市中京区新京極六角下ル
桜之町四五三
〒604 〇七五(二二二)〇九五八

総本山醍醐寺 真言宗醍醐派宗務本庁

管 座 長 岡田有秀

執行 宗務 總長 岩城秀雄

執 庶 務 部 長 大沢自聚

執 教 学 部 長 齋藤明道

執 財 務 部 長 水守俊英

京都市伏見区醍醐東大路三三二
〒601-13 〇七五(五七一)〇〇〇二

昭和54年7月1日

ガンダーラを訪ねて

(完)

東京ブティストクラブ 山田 一真

タクト・イ・バイ 二月とはいえず当地は快晴で、初夏の陽ざしに、汗を流しながら急坂を幾重にも折りながら登って行く、階段歩きつけない人にはきついようです。周りには一本の木もなく、古い土地を思わせる山肌、しばらく登って行くと石積みされた大きな壁のそばに立つ、当時の規模を考えさせてくれます。

山の中腹に、この寺院の中心部があり、先ず最初に僧房のある一部屋に入る。壁画、部屋の中ほどなどに小さな房が、多くさん仕切られています。この部屋から一段上った処に、この大寺院の中心となる部屋があります。今は、中心部の、正面に七、八段の階段のついた石積みされた土壇があるのみですが、当時はこの壇も、しつこい塗で飾られ、上に九輪を頂くストウーパが建てられていたことが想像されます。また、この広場というか部屋の間には、ストウーパを囲む形で一人一人が座すことのできる房が二十ヶ所程あります。仏像をまつるくぼみがあったりして、いろいろと想像してみる案じさと、その光景を頭に描いて、二千年前の有様をしのび感慨無量でした。折しも二月十四日、日本における涅槃会の前日でもあり、今回の同行者一同、ストウー

跡の前で、釈尊涅槃をしのんで三篇依文を唱える。いつの日か多くの比丘達によってなされたであろうと思うと、何ともいえず目頭が熱くなってくるのをおぼえました。

この中心部の裏側には、広い講堂があり、經典の講義やら、結果が行なわれた



かもしれないし、廊下をへだたせて広い執事室があります。ガイドの話によるとこの寺院の東側の下り傾にある遺構は、この寺につかえていた約三千人の雇い人がいた処であるというから、この広い執事部屋の意味もよくわかる。執事室からは、一段下に平らになった場所があり、井戸もあって下仕事をする人々を見ることもできます。

また、ストウーパのある主堂の左前を下るような処に、瞑想室があり、階段を下ると真暗な横穴に入り、その両側に幾

.....

雄大なタクト・イ・バイの遺跡

つかの穴があり、そこには一人一人が居住するスペースがあって、寝起きして神定三昧に入っていたとそうで、現在の禅宗でいう「単」の原型をみたような気がします。

また、これらの建物の後方の一段上にはまたまた寺院というか僧院が山の上まで続いています。途中まで上り、これらを見下ろすと、一層壮大さを感じます。

ここからの見通しはずばらしく、北方にはヒンズークシュ山脈の嶺々が白い万年雪を頂いて連なり、幾重もの山波の手前には、緑の平野が続いており、好季節であったせいかもしれませんが、実に雄大さと、のんびりとした景色に見入り、玄奘三蔵法師が、中国の砂漠を通り、あの山波を越えてこの地に入った時には、何とない感慨を持たれたことかを察するに、しばしば腰を降ろして、時の過ぎるのを忘れてしまいました。

私たちは、約一時間三分程の見学でしたが、タクト・イ・バイを後にして、バスに分乗、タクト・イ・バイの村にもどり、シャバス・ガリにありますアシヨカ王の詔勅石に向いました。

村からちょっと離れた街道のわきの小高い山の中腹にあり、緑の畠の中の道をしばらく歩いて行くと、山の麓の所にある石積壇が囲まれた場所に案内されます。その中には、大きな岩が保存されており、説明によると、現在でも山の中腹に、この岩の半分が残っており、永い年月のうちに出くずれなどあって、岩が二つに割れその一方が、すり落ちてしまい、この

場所保存されているとのこと、この場所、その岩を見ながら説明を聞くと、アショカ王がインドからこのガンダーラ地方までを支配下におさめた時代に、この村びとや、旅びとに、仏教の慈悲と寛容の精神を知らせるために、当時の幾つかの言語をもって、この岩に刻んだものです。山の中腹にある岩は、今では動かぬように、四本の石で造られた柱で、固定されていて、石段もあり、その近くまで行くことができます。

この見学を終って、まるで五月の飛鳥路を歩くような、ゆったりとした気分、農道を通ると、牛がのんびりと草を食べ、村の子どもたちが、異国人をめずらしがって、集まって来ます。子どもたちの顔は、実にすばらしい顔で、民族の見本のように、ほりの深い目鼻立ちの子、美しいフロンド髪、黒くろとした髪、鼻の長い顔、色白の肌、色黒い肌、各々がまったく異った顔をしている。

原住民、アリアン民族、ギリシヤ人、

全仏ロビー

昨年五月号に続いて、また電話のことで恐縮ですが、全仏事務局には相変らず電話による問合せ、質問が数多く寄せられます。今回はこれらの中より、禅問答ならぬ電問答の一席。

「モシモシ、A区に

蒙古民族などが、二千数百年の間に、流れ入り、流れ去りしたこの土地、こんな土地に、仏教の大きな変遷があり、発展があったことは、何か大きな意味があったに違いないのです。

再録板

欧米に密輸される

アジアの仏像

麻薬に代って、東南アジアからの密輸品のエースとして脚光を浴びているのが仏像。最近もバンコクの空港で、二千ドル相当の仏像一体を持ち出そうとしたオーストリア人が一人捕った。

欧米の古美術商の手に渡れば十倍の値

住んでおりますが禅宗のお寺さんを紹介して下さいませんか」

「禅関係では曹洞宗と臨済宗がありますか……」

禅問答? 電問答!

「いえ禅宗なんです」

「禅宗という宗派は無いんですよ。」

曹洞か臨済かわかりませんか」

「困ったわ、とにかく禅宗なんです

ラホールへと向ってしまいましたが、こうしてガンダーラを訪ねてみますと、まだまだ多くの仏教遺跡があり、訪ねてみたい処であり、少なくとも、ベシヤワールだけでも一週間は滞在しなければ、充分とは思われない気持で、再び訪ずれる時を楽しみにしております。(完)

段になるのは確実で、アメリカなどではインフレ・ヘッジとして人気上昇中。仏教の国タイでは相当数の仏像が既に国外に持出されているという。

仏像に対する意識が、欧米人とアジア仏教徒では基本的に違う。西欧のインテリア雑誌などには、仏像の腕をタオル掛けにしている写真が出たりする。たとえ模造品であっても、仏教徒には耐えがたい光景だ。(ヘラルド・トリビューン)

◆掲◆示◆板◆

日仏保 日本仏教保育協会では古屋道

けど……どうしたらいいですか」

「どちらでもという訳にはいきませんのでよく確かめてから、もう一度お電話下さい」

と、いったように禅宗という宗派があると思われている方が大分いるようです。これは真宗や真言宗にもいえることで、「さあ東か西かわかりませんが」や「エッ、真言宗ってそんなにいろいろあるんですか」という状況です。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

全仏人事異動

全日本仏教会事務局では左記の通り人事異動がありました。

- 庶務部長 島田弘道 退任
- 組織部長 馬場道男 新任 (曹洞宗)
- 財務部長 花木義光 退任
- 田代弘興 新任 (豊山派)
- 市橋俊昭 退任
- 中村昌之 異動
- 文化部長 磯山福正 新任 (智山派)

雄理事長の後任に秋山秀済師を新理事長に選出した。なお事務所は左記に移転しました。(全仏の隣り)

港区芝公園四十七三十三 三縁会館内

小沢 省元師(全仏評議員)

六月十九日、脳出血のため遷化。六十九歳。国際仏教興隆協会の事務総長として活躍、インド日本寺の建設に尽力。神奈川県仏副会長、全仏評議員。

事務総局録事 (六月)

十一日 局内会議

二十二日 局内会議

二十六日 文化会議運営委員会

二十八日 組織専門委員会

全仏誌が二百五十号に

足かけ二十五年、記録の変遷

全日本仏教会の機関紙「全仏」が二百五十号となった。年十回として約二十五年間担当者の努力によって続けられているが、その間には「全仏通信」から「全仏」と題号もかわり、編集方法も数度趣きを異にして苦勞の跡がしのばれる。

創刊号より当時の話題をひろってみるつもりでいたが、誠に残念ながら創刊号が欠損しており、全仏事務局の保存ファイルには三号からしかない。(創刊号、二号を探しておりまますのでご協力をお願い申し上げます)

三号は昭和三十年一月に発行されているので、創刊号は二十九年の十月発行と思われる。三号には第三回世界仏教徒会議ルマ大会の報告があり、日本より六十八名の代表が参加している。

また同じ三十年六月には第三種郵

便物の認可を得ている。

五十号は三十五年の三月号で、八つの専門委員会を改組して五委員会を設置したことが書かれている。

百号は昭和四十年一月号で、年頭所感と第七回世界仏教徒会議インド大会の報告が詳細に報じてある。

百五十号は四十四年十月号で、紙面も一新されモダンになっており、万博の法輪閣準備状況などの記事が目につく。

二百号は四十九年九月号で、第二十二回全仏大会開催要項や日本仏教文化会議の報告が記されている。

今回二百五十号にあたり、一号づつ読んでみると今は「き先輩各聖の名前や、困難な時代、良き思い出が偲ばれる。事務報告等が多いとの批判もあります。人事異動のほげしい全仏の体制としては願うるとき、すぐ役に立つような編集なのです。

昭和五十四年七月一日発行
七月号 第二五〇号

発行人 樽 利正浩
編集人 安 本利正浩

発行所 財団法人
全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七十三
電話〇三(四三七)九二七五

＝夏におくる海外旅行＝

- 7月23日発 11日間 秘境小チベット・ラダックの旅
- 7月30日発 10日間 スリランカ一周とベラハラの祭り
- 8月9日発 14日間 インド・ヨガの旅
- 8月17日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅
- 8月20日発 11日間 インドの魅力を探る旅
- 8月24日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅

この他、仏跡参拝団などの団体旅行のご相談もお受けいたしております。海外旅行のことなら何なりとご相談下さい。

—詳しいパンフレットご希望の方は下記まで—

当社作成の「仏跡参拝」の小冊子をご希望の方は無料でお送りいたします。ハガキでお申し込み下さい。

取扱旅行会社
運輸大臣登録一般第154号
株式会社 子代田トラベル
東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話 407-3612 (代表)
400-5100
郵便番号 107

WFB日本大会一周年記念 日・タイ仏教交流の翼 (バンコック5日間の旅)

■昭和54年10月22日～26日
■旅行費用 ￥145,000

エメラルド寺院・ねはん寺・大理石寺院等参拝・水上マーケット・アヌタヤ観光・ナコンパトム視察など・WFB本部訪問と懇談会
(宿泊はすべてハイヤットラマホテル(バンコック))

■お問合せお申込み(取扱旅行社)

日本旅行 五反田営業所

〒141 東京都品川区西五反田1-32-11
☎ 03-492-2940

■後援 全日本仏教会